



【神によって打ち勝つ為まずすべき事】

本日聖書箇所：歴代誌第二十章1-4・12-23節

説教者：鄭南哲牧師

(Rev. Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチ、信仰の家族のみなさん！今日も特別な主の日、主日の朝、主の教会に礼拝を捧げるために来られたみなさんを救い主イエスキリストの御名によって祝福しつつ、歓迎致します。先週一週間も皆さん、お変わりなく、みんなお元気でしたか。先週一週間、教会の受験生たちから生碩君の近畿大学、雄生君の千種高校の降格の良い知らせや、円花ちゃんやきらちゃんの小学校の卒業式の良い知らせも、心からおめでとございます！同時に、病との戦いの中にいらっしゃる教会の家族もいます。带状疱疹中でまた転んで怪我してしまっている佳子執事や、リュウマチの治療を受け始めている桶本姉妹のことも覚えて完全回復と癒しの為、ともに祈り続けて下されば幸いです。

今日は聖書本文には、ソロモン王以来、イスラエルが南北に分かれ、北イスラエルと、南ユダに分かれていた時代、そのイスラエルの南ユダ王国4代目王であったヨシャファテ王(B.C.853)のお話です。今日の本文の中で恐れと危機に巻き込まれていたヨシャファテ王を通して、人生の危機やなかなか自分では勝てなさそうな大きな戦いや問題に直面した時、そこからどうやって神に力と助けを頂き、打ち勝って勝利する事が出来るかの聖書の原則を共に学んで生きたいと願います。

まず、今日の御言葉の本文のイスラエルのヨシャファテ王は、イスラエルの歴史上最大規模の戦争に逆転し、ついに大勝利をおさめたことで有名な信仰の人物です。今日の御言葉本文によりますよ、ある日、ヨシャファテ王は、イスラエルの周囲のモアブ人、アンモン人、メウニム人たちが連合して、おびただしい大軍を結成し恐ろしいほど、猛烈な攻撃でイスラエルのユダ王国に攻めて来た時の内容です。それはヨシャファテ王はもう半日が経つと、首都エルサレムまで陥落(かんらく)されそうだという情報を、入手しました(歴代誌二20:1)。敵国はいずれも、ヨルダン川や死海の対岸(たいがん)に位置するイスラエルユダから近い隣国でした。ヨシャパテに勝算はまったくありませんでした。

この御言葉の話は、私たちの人生にも深い関わりがあると思います。戦いの内容は違ってもみんな人生の中で様々な戦いを体験しつつ、時には耐え難い熾烈な戦いを生活の中で続けている我々ではないでしょうか。経済的な戦い、霊的な戦い、結婚生活における夫婦の戦い、職業上の戦い、人間関係の戦い、そして今日は自分との戦いも激しいなどで時には人生の危機を体験しながら、さまざまな戦いに我々も直面しています。今日生かされている私たちの人生中でもさまざまな戦いに勝利して行くための信仰の原則を明らかにするために、神はヨシャパテ王に起こった実際の出来事を聖書に残されたと信じます。

<勝利して行くため、我々がまずすべき事>

<①勝利するための第一の原則：まず、敵を正しく見極める事です。>

歴代誌第二十章1節には、人生のさまざまな戦いに勝利するためにまずすべき必要な第一の原則を教えてください。それは、**まず敵を見極めることです。**敵がだれなのかを正確に、そして正直に把握しない限り、私たちが人生の戦いに勝利することはできないと思います。これはある意味で当たり前の話で、とても簡単なようですが、実はとても混乱しやすい難しい原則だとも思います。意外と多くの方は、自分の敵がだれなのかを知らずにいます。しばしば私たちは、ある出来事やきっかけにより愛すべき家族や夫、あるいは妻が敵のように戦おうとする人たちがいます。一緒に暮らしている隣人や同じチームで共に協力すべき職場の同僚とか、時には自身さえも敵とみなしてしまう時があり、打ち勝とうとして責めたり、苦しめたり、無理やりに押さえつけようともします。あるいは、逆に自分や自分の家族以外は誰でもみんな自分たちに害を与えようと戦うべき敵みたいにみなし、警戒し、自分の家を城見たいに作ろうとし、外部との交流(こうりゅう)を遮断し、閉鎖(へいさ)的に生きようとする方々もいます。

しかし、みなさん！普通本当の敵というのは、意外にも自分自身の態度によるのが非常に多いのではないのでしょうか。

わたしたちを落ち込ませる原因は、「人や状況そのもの」よりも、むしろ「その人や状況に自身がどう反応するのか」という自分自身の態度にかかっている場合が多くあります。

今日の聖書の本文によりますと、今イスラエルの周辺の3国から総攻撃を仕掛けられたことを知ったヨシャファテ王は「恐れた」(3節)と書かれていることに注目して下さい。恐れは、このように危機に巻き込まれて、どうしようもできない状況におかれた時の

人の自然な反応でしょう。思わぬ大きな問題に直面すると、私たちはパニックを起こし、何が起きているのかさえ把握できなくなる時もあります。‘よく分からないし、どうすればいいんだろう’というのが、大きな問題が襲って来た時の人の当然な反応だと思いません。

しかし、恐れや不安のため、失望したり、あきらめなくなったり、あるいは「なぜ私が。」と神様に対して恨みを感じるような場合には、恐れに打ち負かされることになることも私たちは忘れないようにしましょう。人は恐れると、そこから逃げようとしたり、なかつたかのように否定をしたり、時には身近な人に今の全ての状況になったのは全てあなたのせいだと責めてしまう時もあり、自分自身や大事な自分の見方である人との関係さえも恐れて結局みずから全部打ち壊そうとする場合もあるでしょう。

しかし、みなさん！神はそうになる事を決して望まれません。あきらめる事も、人と戦う事も、愛し合うべき人たちの関係が切られたり、別れたり、分裂する事も主の御心ではない事を忘れないで下さい。神は自分も含めて全ての関係において愛し合うように、一つになるように、平和を保ち共に生きる事を望まれます。恐れを感情を、問題を乗り越えるための動機にすることもできるということでもあります。

エペソ人への手紙6章10-12節には我々の戦うべき対象についてこのように教えて下さっています。

「終わりに言います。主にあつて、その大能の力によって強められなさい。11悪魔の策略に対して立ち向かうことができるために、神のすべての武具を身に着けなさい。12私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです。」

人生の中でほとんどの我々の戦いはヨシャパテ王が直面したように血を流しながらの実際戦争のように生き残されるか死ぬかの戦いではありませんが、人生の危機にもたらそうとする戦いや問題から自分や大切な関係を守るか、諦めるか、乗り越え打ち勝てるか、戦いに追われ、覆われ、恐れて逃げて負けてしまうかかと思えます。

しかし、ここで我々が忘れてはいけない事は、本当の我らの敵が存在して、それに立ち向かわなければならない事を上の聖書の箇所は指摘し、教えて下さっています。我々に自信感や生ける力を失わせ、窒息(ちっそく)させつかむべき人生の希望や望みをつかめないように無気力にさせたり、共に愛し合っていくべき人たちと関係を分裂させ、お互いに自分たちで熾烈に責め合ったり、苦しめあいつつ戦わせる計略を企んで、企(くわだ)てる本当の敵である悪魔の策略が存在するので、それと戦うべきである事でもあります。つまり、みなさんの隣にいる夫や妻、家族、みなさんの親、そして教会の神の家族などが決して戦うべきみなさんの敵ではない事をはっきり見分け、区別し、宣言する必要があります。

<②勝利するための第二の原則:まず神の前で自分が不十分であることを素直に認める事です。>

それではなぜヨシャファテ王は恐れたのか考えて見たいと思います。それは、自分の力ではどうしても全く希望のもてない、見えない状況に直面していたからです。その時、本文12節を見ても彼は主に向かってこう叫びました。

「私たちの神よ。彼らをさばいてくださらないのですか。攻めて来るこの大軍に当たる力は、私たちにはありません。私たちとしては、どうすればよいか分かりません。ただ、あなたに目を注ぐのみです。」この箇所は、人生のさまざまな戦いに勝利するための第二の原則もう一つを私たちに教えて下さっています。それは、自分が不十分であることを認めるということです。

世には暗黙的にこういう価値感が重要されています。こういう自分の足りなさや能力不足、不十分さを認めても、見せてもいけないということですね。社会で、職場で、学校で、家でも、多くの人々は自分は絶対強い！自分は何でも必ず出来る！見たいな完璧な、立派な人のような仮面をかぶっているのではないのでしょうか。しかし、聖書は逆の事を教えて下さっています。むしろ、父なる全能の神様の御前で自分の限界、弱さ、足りなさを正直に神に認める人こそ、幸いであると教えて下さっています。なぜでしょうか。神様は、助けを求めず、必要としていない人を助けることがおできにならないからです。私たちが自分の不十分さを認めて謙遜に、正直に信じて神様の助けを求めた時、神様は働かれるお方であるからです。

ヨシャパテ王は恐れて、その後の反応を見て見ましょう。どうしてですか。「私たちとしては、どうすればよいか分かりません。」と認めた上で、12節に「ただ、あなたに私たちの目を注ぐのみです。」と神様に切に助けを求め、祈りました。

私たちは多く問題にかかった場合、自分の足りなさ、限界、無能感を感じていながらも、最初から神に認めようと、正直に助けを求めようとしません。なぜでしょうか。まだ、自身の力で戦って見てから、自分の頭や知識、今までの経験した事を生かせば何とかな

れる、うまく行けるかもと言いながら、ついに最後、最後にどうしようも出来ず、覆われて死にそうになった場合、ようやく神の前で告白し切実に認めるようになる場合が多くありませんか。そのため、人は大分大切なものを失ってから、大失敗をしてから多くの痛みを負って神に助けを求めて来るので人間ってどれほど愚かでしょうか。

我々は主に焦点を合わせる必要があるにも関わらず、問題を解決することのできる唯一のお方から目をそらし、それ以外のものに焦点を合わせてしまいがちではなかったでしょうか。我々は人生の中で問題や思わぬ戦いに直面した時に、神様は御前で正直になり、謙遜になって自分の不十分さを認め、助けを求め事を喜ばれます。私たちの非常に限られている力、智恵、能力により、生きておられ、共におられる全能なる神様からの力と知恵受け取る事により、打ち勝って行く事が出来る秘訣ではないでしょうか。先ほどのエペソ人への手紙6章10-11節には我々の戦うべき対象についてこのように教えて下さっています。「終わりに言います。主にあって、その大能の力によって強められなさい。11悪魔の策略に対して立ち向かうことができるために、神のすべての武具を身に着けなさい。」

旧約聖書の中ゼカリヤという神の預言者を通して言われたように、人の人生は、「権力によらず、能力によらず、私の霊によって」(旧約聖書ゼカリヤ書4章6節)と書かれている通りに、我々は人の力、知恵だけではなく、神の霊が私たちの内側で働いていたいく必要があるのです。ヤコブの手紙1章5節には「あなたがたのうちに、知恵に 欠けている人がいるなら、その人は、だれにでも 惜しみなく、とがめることなく与えてくださる神に求めなさい。そうすれば与えられます。」

<③勝利するための第三の原則は問題をすぐ神にゆだねる事です。>

自分の力でどうしようもできない危機的状況にあって、ヨシャファテ王はしたのは何でしたか。彼は全国に断食を布告(ふこく)し、共に神に切に祈るよう命令しました(3-4節:ヨシャファテは恐れた。そして心に決めて主を 求め、ユタの全土に断食を呼びかけた。ユダの人々は集まって来て、主の助けを求めた。 実にユタのすべての町から人々が来て、主を求めたのである。)。そして、国の中ユダの人々が集まり、神の助けを祈り求め始めたのです。ここに我々が人生のさまざまな戦いに勝利するための第3の原則が見出されます。それは、まず、問題をすぐ神様にゆだねることです。

愛する信仰の家族のみなさん！ここで、「神にゆだねる」とは、どういうことでしょうか。簡単に言いかえりますと、神様に向かって問題を打ち明ける事、祈ることを意味します。残念なことに、私たちはしばしば自身の思う通りが一番ベストだと思い込んで、自分の力で物事を全て解決したいと強く願い、祈ることを後回しにしてしまう時が多くありませんか。

ある日、ある姉妹が自分の苦勞を教会の牧師に相談して来てこう言いました。“先生、先生、本当に大変です。状況が全く良くなりません。もう私の力ではどうすることもできません。どうすれば良いでしょうか。”その時、牧師がこう答えて言います。“あ、そうですか。私たちに出来ることと言ったら、主に祈ることだけのようですね。”すると、その姉妹ががっかりした表情で固くなってこう答えたそうです。“先生、もうその手しかないのですか。すぐ簡単に諦めちゃうんですか。祈る意外に出来る方法がないなんて”と。みなさんはこの話を聞きたいかがでしょうか。

愛するクリスチャンプレイズ教会の兄弟、姉妹、信仰の家族のみなさん！祈りは、私たちが人生の中様々な戦いに直面した時に、勝利するために最初に、いや常にまず優先に使うべき武器であることをぜひ忘れないで下さい。一番愚かな人が祈りを大変なことになって、もう駄目になりそうな時によく祈ろうとする人たちです。決して、祈りを最後の手段ではありません。そのような方々は日常生活の中で本当の祈りの力を体験したことがほとんどなかった人に間違いありません。

地上に来られ、最も大きな戦いをされた神の御子であり救い主であられたイエスキリストご自身が、最もよく祈っておられたことを我々が共に覚えておきましょう。ヨシャファテ王は懇切に神様にこのように祈りました。“神様、あなたは過去に私を助けだして下さいました。そして、将来も助けて下さることを知っています。ですから、今のこの時にも、私を助け出し、救い出して下さい!”と。神はヨシャファテ王の祈りにどう答えられたかに注目して聖書の本文を見て見ましょう。

15節を一緒に読んで頂けますでしょうか。「この大軍のゆえに恐れてはならない。おののいてはならない。これはあなたがたの戦いではなく、神の戦いである。」つまり、あなたの祈りに答えて、その戦いを私があなた代わりに戦ってあげるから恐れなくても良い！という神様のメッセージではありませんか。

人生のさまざまな戦いに勝利して行くためには、自分の限界を謙遜に認めてから、その問題を祈りを通して、神様にさらけ出し、委ねれる時、我らの考えにまさる全能の神様ご自身がその熾烈な戦い中の問題を解決し、乗り越えさせ、勝利へ導いて下さいます。祈りをもって神にさらけ出して委ねられる者こそ、信仰の内に安らぐことが出来るでしょう。

今日多くのクリスチャンが生きておられる神の力を体験出来ず生きた感謝と証しを失っている理由は、イエスキリストを信じますと言いながら、実際に常に神様に心から委ねつつ、祈っていないからではないでしょうか。

意外と多くのクリスチャンだと言われている方々を見ると、祈りの形は持っていますが、心から神様に委ねられず、実際にさまざまな問題や悩み、戦っている事に対して相変わらず自分の力で力尽きてしまっている姿がよく見えます。その結果、もっと疲れ果ててしまったり、問題の悪循環に巻き込まれてしまうケースが多くあります。

もし今日ヨシャファテ王が無理やりに盲目的に自分たちの力や目の前にいる将軍や武器に信頼して、肯定的に考えてさあ、敵軍と戦おうとしたなら、もうイスラエルの南ユダはイスラエルの歴史からその時消えてしまったかも知れません。しかし、彼は他の人間的な方法より、神に正直に認め、助けと解決、救いを求めた時に、自分も、愛する人々も、民や国も守られ、救われ、多くの犠牲を払わず打ち勝つことが出来ました！もし我々も限界ある自分の力で全てを戦おうとするなら、私たちは間違いなく打ち負かされてしまうと思います。

あるクリスチャンの方々は謙遜に神に頼る信仰と祈りの力ではなく、自分の情熱と熱心さで、どんな犠牲を払っても神のためによく戦おうとします。立派なクリスチャンのようになろうとし勝ち取りたいと一生懸命にやります。しかし、しばらく厳しい現実と直面してしまうと、徐々に後じさりが始まり、神様にごっかりし、恨みながらと信仰の道から離れてしまったり、反対にもう神様の為の一生懸命にやっても成果がないことに自分の無気力を感じたり、自己憐憫に陥ったり、自分になりにより罪責問と失望に打ちのめされるようになってしまうケースもあります。ある意味で、我々がクリスチャンであれ、そうじゃない人であれ、今まですべて自分の力で行って来たために、疲れ果ててしまい、ついには何もできなくなってしまったのではないのでしょうか。

しかし、愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！その時さえも大丈夫でしょう。

なぜなら、神様御自身は「大丈夫。あなたにごっかりさせられることはないよ。あなたが私を支えているのではないんだから」と言っておられます。みなさん！覚えるべきなのは私たちが神様を支えるのではなく、神様が私たちを支えてくださるのです！神様は今も私たちに「重い荷は私に下ろして、私に任せて。そして、あなたは信仰の内に安らぎなさい。私があなたを通して働きますから！」と言われるのです。今もし、みなさんの中で「主よ。もう私は無理です。疲れちゃいました。うんざりです。本当に、うんざりすることにもうんざりです。神様！もうお手上げです。」と今自分の心に叫んでいる方々がいらっしゃいますか。

大丈夫です！実はその瞬間が神様の働きを待ち望む時ですから。神様はその方々にこうおっしゃると思います。

“それで良い！これからは、私が働きを始めよう。あなたがわたしに心から委ねる時まで待ってんだ。あなたのための素晴らしい計画はもう立っているからさ。さあ！気を楽しみなさい。あなたを通して私が働くから。むしろ私にすべて任せて！”と。

今日の本文第二歴代誌20章では2度も、「恐れてはならない(15、17節)」と命じておられます。実は聖書には多くの命令が出ていますが、そのなかで一番たくさんされている命令は「恐れるな」という命令です。なぜならば、神ご自身が、私たちのためにそして私たちと共に戦って下さると約束されたからです。

申命記1章29-30節「それで私はあなたがたに言った。「おののいてはならない。彼らを恐れてはならない。」あなたがたに先立って行かれるあなたがたの神、主が、あなたがたのために戦われる。エジプトで、あなたがたの目の前で、あなたがたのためにしてくださった同じように。」

愛する信仰の家族のみなさん！いまだかつて、神さんが戦いに敗れたということがあったのでしょうか。いいえ！この世が始まってから一度もありません！私たちは最後に誰がついに勝つかを知っています。最後ではなく、一番先に、いや常に主にゆだねるなら、大きく見えた問題でも縮(ちぢ)んでしまうのです。今すべての状況がそうでなくても私は神に信頼しゆだねながら、4月から始まる21年度！祈りを常に、いつも先におく事により、さらに逆転し、大勝利する一年となりますようにみなさんとなりますように切

にお祈り申し上げます。

詩篇138篇3節「私が呼んだその日に、あなたは私に答え、私のたましいに力を与えて強くされました。」

詩篇145篇18節「主を呼び求める者すべて、まことをもって主を呼び求める者すべてに、主は近くられます。」

個人的にも先に祈り、特に家の教会で共に先に祈り合いながら、実際神様が祈りの答えとして、我らの為に、戦いに勝利し、問題を解決させて下さった証しがたくさん起こされ、神を体験出来る各牧場、家の教会たちになりますように祝福を祈ります。

<④勝利するための最後の第四の原則：神様に先取りの感謝(まず感謝)をささげる事です。>

最後に、今日ヨシャファテ王を通して神様が人生の戦いに勝利するための特別な原則があります！

21節をご覧ください。「彼は民と相談し、主に向かって歌う者たちと、聖なる装いを着けて賛美する者たちとを任命した。彼らが武装した者の前に出て行って、こう言うためであった。「主に感謝せよ。その恵みはとこしえまで。」のはとても興味深い事実ではなかったでしょうか。まだ戦争が終わっていません。始まろうとするところでした。ところが、イスラエル軍は、聖歌隊を先頭にして、神様への感謝の賛美を歌いながら、戦場へと行進して行きます。非常におかしい場面ではないでしょうか。

結局、敵の連合軍はイスラエルの賛美の歌を聞きながら、きつとさらに大軍が自分たちに攻撃し始めて来ると混乱しているうちに、23節によりますと、「彼らは互いに戦って滅ぼし合った」のです。イスラエルは大勝利を収めました。

愛する信仰の家族のみなさん！神様はなぜこのような方法を取られたのでしょうか。

この事実は、勝利を収める前に神様が自分たちを助け守り、救い出し、勝利に導いて下さる神の御業を信じて信仰によって神様を賛美する事の大切さをよくよく教えて下さっています。

つまり、神様を絶対信じる信仰によって先取りの感謝をささげる大切さを私たちにわかりやすく教えて下さるためだったのです。賛美は何でしょうか。単なる歌や詩ではありません。歌詞や曲が気に入って我らの心に慰めとなる程度のもではありません。

賛美はギリシャ語で「アイネオ」、「エパイノス」と言います。意味は一般の歌や演奏、詩ではなく、神をほめたたえる、神の大いなる御業をあがめる聖歌、信仰告白であるのです。どんな神を信じ、告白し、ほめたたえることでしょうか。神のどんな偉大な御業をあげめ賛美し、あがめることなんでしょうか。

まだ問題も、戦いのそのまま目の前にあるにしても、神様のみを見上げ、その全能なる神様が必ず、自分の苦しみの中、戦いの中、問題の中で私を守って下さり、身代わりに戦って下さり、最高の勝利を、完全に問題解決を与えて下さるお方であり、その偉大な御事を先取りに信じて、自分の信仰告白を表す事が賛美であります。そして、その神様に先取りの感謝を捧げる事が賛美であります！

まさに今日の本文のヨシャパテ王がそのケースが我々に戦いの前にすでに神ご自身が自分たちのために戦いつつ、勝利を与えて下さる事を信じて、先に感謝の賛美を捧げながら、行進したのではないのでしょうか。その結果、信じた通り、先に賛美し、感謝した通りになりました。先取りの信仰告白と感謝を持って捧げられる賛美の通り神様は成して下さるお方です。ですから、愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！賛美は神に捧げられるとても縛っている鎖から解放を、勝利への力ある大切なものです。神の勝利！神の御業！神の救い！神の助け！神の回復と癒しを先取って信じて、感謝しつつささげられるものです。

<感謝のレベル>

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！感謝にもレベルがあり、段階があるとみなさんに話した事がありますが、覚えていますか。①一番低い段階の感謝は、条件付き(IF)の感謝であります。「もし私がこうなったら、私の願う通りにそうすれば」「感謝します」という条件付きの感謝のレベルです。いつも他の人と比較して幸せを図ります。その上の段階の感謝条件付きの感謝よりもう少し良い感謝のレベルがあります。実は大部分の人がここに該当されるのではないかと思います。

②結果による(Because of)感謝の段階です。何かを受け取ったから、感謝出来る結果や理由があるため感謝する事です。感謝すべき時、感謝を表すだけでも良い事ではあります。しかし、この二つのレベルまでは別にクリスチャンではなくても、信仰がなくても、だれでも出来ることであり、子供たちも出来るレベルの感謝にすぎないレベルです。次のレベルからは必ず神を信じる信仰と確信がなければなかなか難しいと思われませんが、その上のレベルは③先取りの感謝(privious)の段階です。結果を見る前に感謝を捧げます。まさに今日の本文のヨシャパテ王がそのケースが我々に戦いの前にすでに神ご自身が自分たちのために戦いつつ、

勝利を与えて下さる事を信じて、先に感謝の賛美を捧げながら、行進したのではないのでしょうか。その結果、信じた通り、先に感謝した通りになった事を見ました。そして、一番上の感謝のレベルはそれにもかかわらず (In spite of) 感謝するレベルであります。今しばらく物事がうまくいなくても、なかなかすぐ問題、戦いがすぐ終わらず苦しい状況の中でも、**④それにもかかわらず (In spite of) 感謝するレベル**で、あらゆる悪条件の中でも、神様がついにはすべてを必ず益として下さる事を信じて、すべての事に感謝する段階です。条件付きの感謝ではなく、条件を超えた感謝であります。

このような感謝が出来るためには少なくともローマ人への手紙8章28節とピリピ人への手紙4:6-7節の御言葉を信じていなければ出来ません。「神を愛する人たち、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。」

ピリピ人への手紙4章6-7節「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての理解を超えた神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。」

新たな今年、そして、4月からの21年度には条件付きの感謝、感謝の結果を見て感謝する段階から、信仰によって、信仰を立てて、先取りの感謝とそれにも関わらず感謝を捧げられる勝利の1年となりますように祈ります。

<まとめ>

メッセージを終わらせたいと思います。今日の御言葉を通してみなさんは今直面しているさまざまな戦いや問題に打ち勝つため自分のどんな態度を改める必要があるのでしょうか。戦うべき敵が間違えないようにしましょう。主の御前で先に自分が不十分であることをいつも素直に認めていきましょう。そしてその問題をすぐ神様に祈りをもって委ねましょう。どんな問題や戦いの中でも神様の勝利を信じ、先取りの感謝と賛美をささげましょう。主よ！あなたには解決できないことなどは決してありません！この告白と賛美によって神様に先取りの感謝をささげられるのです。これが本当の信仰であり、主は必ずその賛美と信仰の告白、感謝の通り成して下さる事を信じます！愛するクリスチャンプレイズチャーチの全家族が共に賛美の力を信じ、これからもさらに私たちの代わりに戦いつつ、打ち勝つ勝利の神様を！私たちを愛し、助け、救って下さる神様を！大いに体験して行きますように神の祝福を心から祈ります。

申命記31章8節「主ご自身があなたの先に進まれる。主があなたと共におられる。主はあなたを見放さず、あなたを見捨てない。恐れてはならない。おののいてはならない。」 アーメン！！